

3 | 施工計画補足資料

建築計画関連資料

1 各月の仮設計画図(ステップ図)による詳細検討

- 着工から月ごとの総合仮設計画図(ステップ図)を作成し、各段階での重機配置、車両動線を詳細に計画することにより2019年11月末の完成を遵守します。

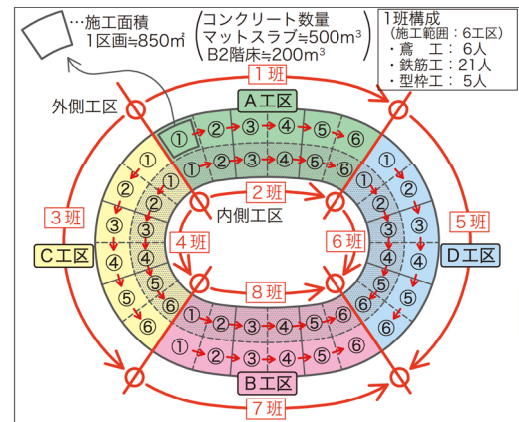


2 基礎躯体工事のサイクル工程(労務・資機材の平準化を考慮した工区割)

- 施工面積や、コンクリート打設数量を考慮し、1工区を内・外6工区づつに分割し、内・外を同時にサイクル工程にて工事を進めます。

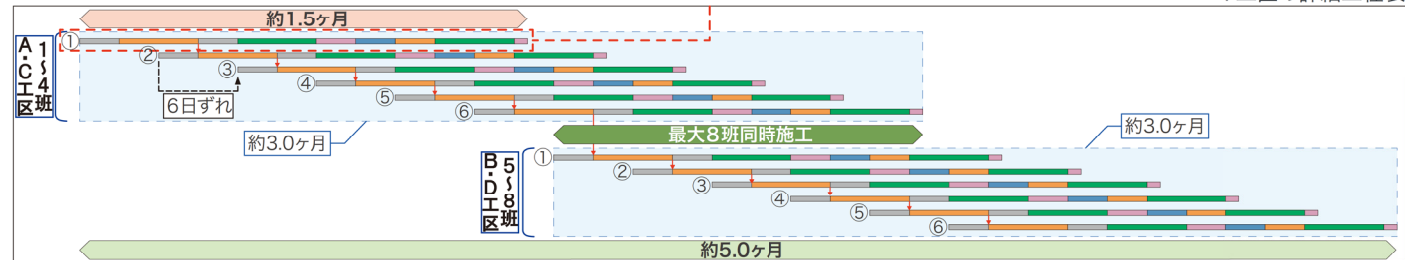
最適な工区分割計画とサイクル工程による施工管理

1. 円周方向に工事を進めることで常に同一形状、同一スパン、同一数量での作業、対称性による資機材の繰り返し活用が可能
2. 繰り返し作業の習熟効果により工程促進及び品質・安全性を向上
3. 「労務数が最小」かつ「工区間ラップが最大」となる工区分割計画と労務・資機材の平準化により省力化と工期短縮を実現



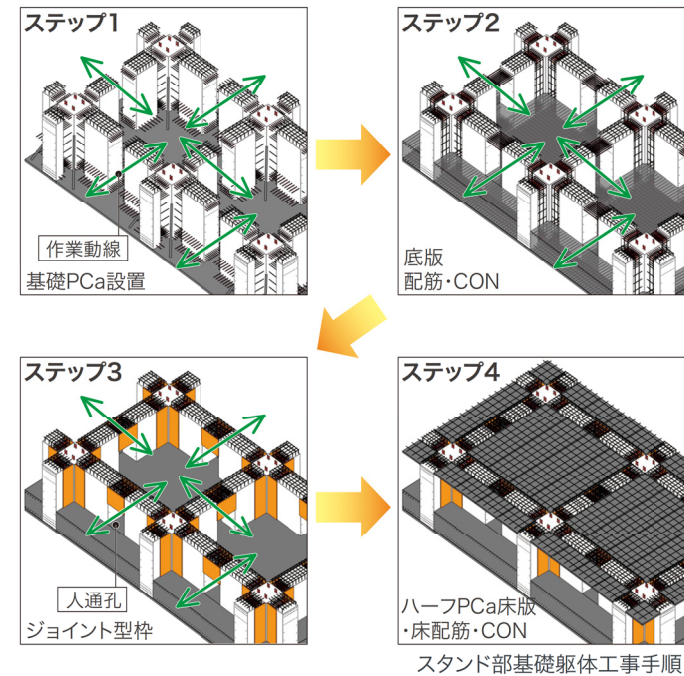
①	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	墨出し	基礎PCa設置(67P) 15P/日×5日+1日(高工6人)				梁ジョイント配筋 6か所/日・人×3日(鉄筋工4人)		底版配筋(55t) 0.8t/日・人×6日(鉄筋工12人)				底版CON打設				ジョイント型枠組立 5か所/日・人×3日(大工5人)		床ハーフPCa版設置(60P) 高工6人×3日		スラブ配筋(10t)		スラブCON打設													

1工区の詳細工程表



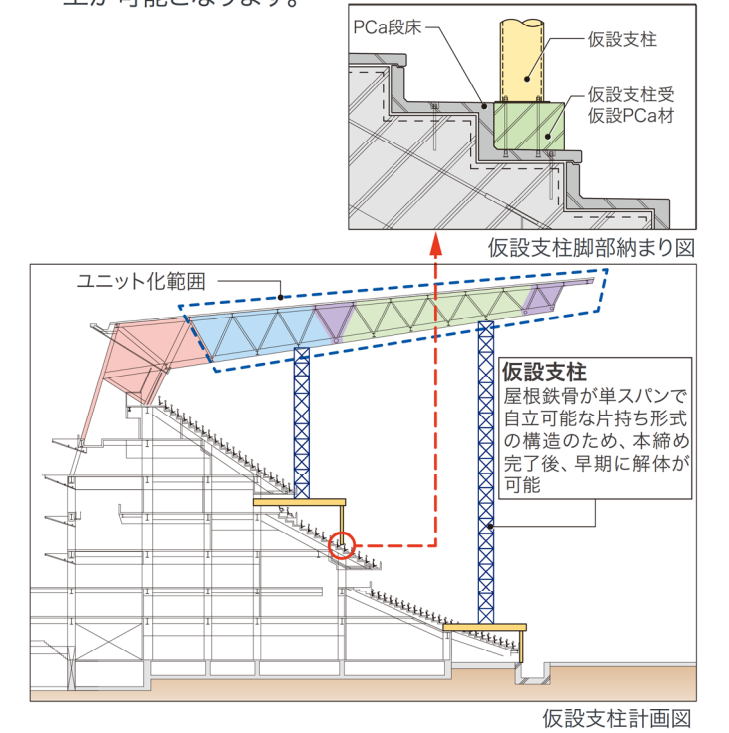
3 地下2重ピットの施工検討

- 施工歩掛が下がる地下2重ピット工事の合理化を進め省力化を図るために、基礎梁をPCa化します。
- 人通孔の大きさ・レベルを工夫し、2重ピット施工時の作業員の動線を確保するとともに、材料を水平に移動することが可能となります。
- 2重ピット施工の歩掛が大幅に上がると同時に安全性を確保できます。



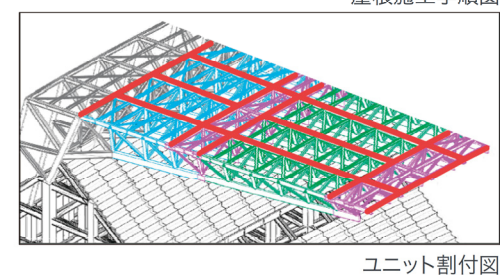
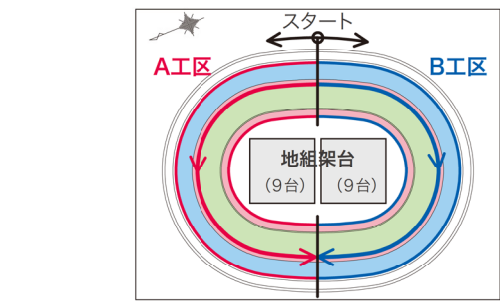
4 内装工事の早期着手を実現する仮設支柱足元の詳細検討

- 屋根鉄骨を受ける仮設支柱の柱脚部について、PCa段床上に仮設支柱受けの仮設PCa材を設置することで、PCa段床の後施工を無くします。
- 仮設支柱設置時も安全区画ライン・止水ラインの形成が可能となるため、屋根仕上げ工事と内装工事の同時施工が可能となります。



5 屋根鉄骨地組ユニットのサイクル工程

- 同一形状・同一断面のユニットを繰り返し吊込みを行うことで、作業の習熟効果による工程の促進を図ります。
- 屋根鉄骨完了エリアから順次仮設支柱を解体し、早期に屋根・スタンド仕上げ工事へ移行するまでをサイクル化することで、安全かつ効率的な施工が可能になります。



ユニット吊込み	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
鉄骨地組									
調整・本締									
母屋材取付									
野地板敷込									
点検歩廊									
ケーブルラック吊込み									
照明器具									
スピーカー									
仮設材取付け									
ユニット吊込み									

1工区当り9架台	-1日目	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
架台①										
架台②										
架台③										
架台④										
架台⑤										
架台⑥										
架台⑦										
架台⑧										
架台⑨										

1工区当り9架台	15日	8日	1/4工区(81ユニット):81日(約4ヶ月)	10日	1/4工区(81ユニット):81日(約4ヶ月)	12日
地組架台組立						
地組						
架台①						
架台②						
架台③						
架台④						
架台⑤						
架台⑥						
架台⑦						
架台⑧						
架台⑨						

- 仮設支柱の解体は本締めが完了したエリアから順次着手し、早期に次工程へ移行